

第10回

石州和紙に描いた
日本画展

石本正

池庄司淳

池田知嘉子

伊藤はるみ

上野富二郎

内海福溥

雲丹亀利彦

奥村美佳

落合浩子

梶岡百江

岸本裕子

桑野むつ子

庄田達生

多留裕二

谷保玲奈

田村紀美枝

中野嘉之

中原麻貴

中村文子

西久松吉雄

西久松綾

藤本直司

牧野良美

宮川典子

吉川弘

吉村和起



島根県 浜田市立

石正美術館

SEKISHO ART MUSEUM

ごあいさつ

画家・石本正（1920-2015）が気に入って作品を描いていた《石州和紙》の魅力を、少しでも多くの方々に感じていただきたいという思いで続けてきた本展は、今年で10回目をむかえます。

石本が2015年に95歳で他界してから、彼が石州和紙に描く新作は生れなくなりましたが、本展を通して、石本正に縁の深い画家、あるいは地元ゆかりの画家の手によって石州和紙を使用した新たな日本画の世界が広がり続けています。この展覧会が、多くの方に石州和紙の魅力的な一面を知っていただける機会になればと願っています。

最後になりましたが、本展覧会開催にあたり貴重なお作品を出品いただきました作家の方々をはじめ、御指導、御協力賜りました関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

主催者

第10回 石州和紙に描いた日本画展

会期:令和2年9月8日(火)～10月25日(日)

会場:浜田市立石正美術館 企画展示室

【主催】浜田市立石正美術館 浜田市
浜田市教育委員会
公益財団法人浜田市教育文化振興事業団
【協賛】石州半紙技術者会 石州和紙協同組合
【協力】石州和紙会館

第 10 回石州和紙に描いた日本画展

出品作品



池田知嘉子 「風化」
使用和紙：「楮紙」一雙（西田和紙工房）

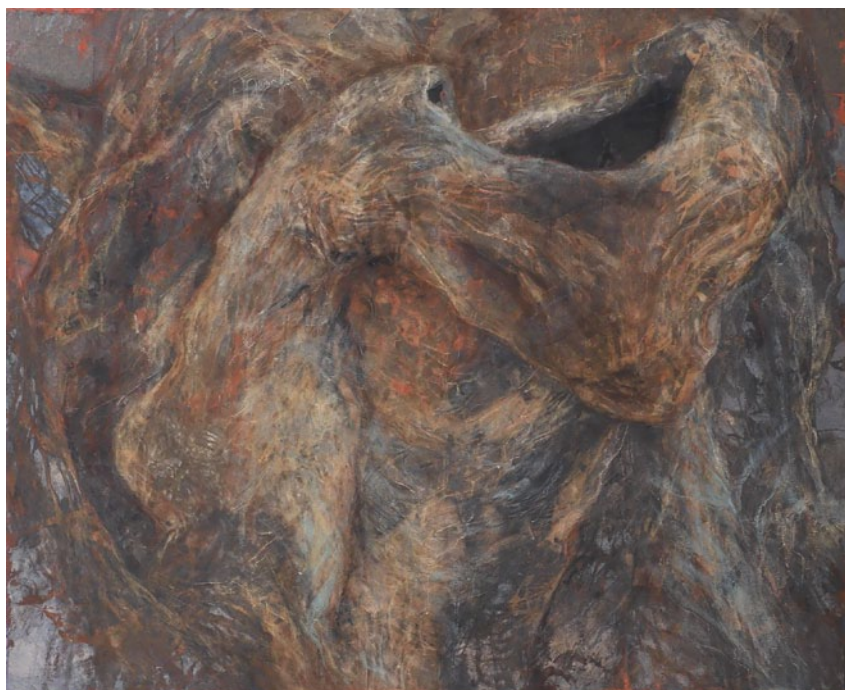
形あるものはいずれは朽ちて土と同化して行くその過程を表現しました。観る人の視線が画面の奥へ奥へと引き込まれればと思っています。

【石州和紙についての感想】
和紙の持つ風合い（質感）を活かす上で裏彩色での表現を多めにしています。全体の6～7割はそれです。表からの着彩はわずかでまったく裏表着彩していないところもあります。

池田知嘉子 「樹の時間」
使用和紙：「石正紙」二双特厚
（石州和紙久保田）

人間社会の時間が変質するものであったとしても、樹にはその中を流れる水と同じように、太古から変わらない生命体そのものとしての時間が流れている。
最近、「絵を描く」というより、そんな生命そのものの時間を画面に何とか捉えたいと思うようになった。

【石州和紙についての感想】
漉かれて繊維がからみあった和紙や、そこに滲み込み、のせられていく岩絵具には、すでに自然の一部として素材そのものの美が生きている。そんな和紙の命と共鳴するような仕事ができればいいのだけど…。



伊藤はるみ 「初夏」
使用和紙：「石州特種判-131」二双
（西田製紙所）

かきつばたの写生はかなりしているのに、作品にしたのは10号1点だけでした。苦手意識を払拭したいと思い、今回描いてみました。まだまだ課題がいっぱい残りました。

【石州和紙についての感想】
貼り方（張り方）もありますが、絵の具を塗った時に撓みが多^{たわ}いように感じました。今回は二双紙を使用したのですが、パネルに張る時に少し薄いと不安に感じましたが、描いている内に、丈夫な紙だと思いました。

上野富二郎 「竹叢」
「石州特種判-131」二双特厚
（西田製紙所）





内海福溥 「鳥の歌」
使用和紙：「石正紙」二双特厚
(石州和紙久保田)



奥村美佳 「かくれ里」
使用和紙：「石正紙」二双特厚
(石州和紙久保田)

山々に隔てられた里山は、現代でも人々の暮らしと自然が調和し、美しい景観を觀せています。そこには、里に住まう人々の山を守る、たゆまぬ努力と日々の労苦があります。ただ自然のままの山ではなく、古より、日本の人々の手によって大切に守られてきた里山には、人と自然が生み出す形が見られ、描く度に新たな発見を得ることができます。

【石州和紙についての感想】
いつも素晴らしい紙をありがとうございます。石正紙の強靱で美しい質感は、筆を通して触感的にも実感でき、描き手としての喜びを覚えます。胡粉の発色や墨線の趣も魅力的で、紙（支持体としての）の力が表現を助けてくれます。この度も、石州和紙の魅力に励まされつつ、描くことができましたことに感謝致しております。

雲丹亀利彦 「あの刻」
使用和紙：「石州特種判-131」
二双特厚（西田製紙所）

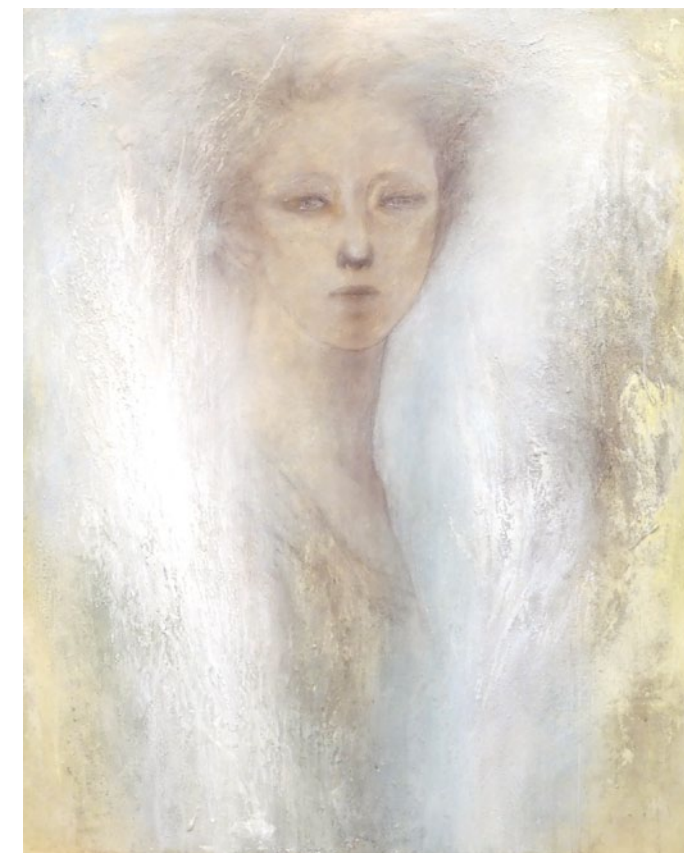
アトリエでモチーフを眺めていると窓からの光を浴びて表情を変える。また次の日も次の日も当然のようにそこにあり続ける印象を与える。そうであってほしいと思いながら今を描き、心の中によぎるシーンが、時を超えて現れる。大切な心の風景が明日へのちからとなります。



落合浩子 「Dialogue（ダイアログ）」
使用和紙：「人天紙」一双（西田和紙工房）

人物を描くということは、鏡のように、その心情や世情を映します。日記のように毎日描き続けることで、時間の流れの中での人という存在を表現したいと試みました。日々、心の中で、自分や、自分の中の何か、と、またはこれから絵を見て下さる方を思って、対話しながら制作すると絵が変わっていきました。とりとめのないものになったかもしれませんが、正直に、この時の心情を描くことに努めました。

【石州和紙についての感想】
今回は、前にも試させていただいた人天紙です。薄めの厚さになると、性質も風合もかなり違って、扱いが変わりました。たらしこみ、のように水をたっぷりふくませると大きく紙がのびるので、この紙は、水は少なめ、細かい絵具は薄く、例えば、ごく薄塗りを重ねる、淡墨を重ねるのに適しているように思います。紙の性質に合わせて、少し表現を変えました。





梶岡百江 「願い星」

使用和紙：「人天紙」二双特厚（西田和紙工房）

家で過ごす長い時は、
ここ数年の自身を振り返る時間となった。

日常の風景を
こんなにも愛しく
ありがたく、
いまあらためて想う

明日へのささやかな願い
静かな祈りを
絵のなかに込めたい。

【石州和紙についての感想】

風合いの豊かな和紙をありがとうございます。
和紙へのアプローチを変化させたいことや負担を減らしてみたいこともあり、ミョウバンを入れず魚膠で礬砂をひいてみたら効きすぎてしまい、最初に和紙があばれてしまいました。

何度か水でなめして馴染ませながら水張りをしたら落ち着きましたが、かえって紙に負担をかけてしまいました。

作業しながら、和紙の強靭さをあらためて感じました。

礬砂の濃度はかえることはあってもミョウバンを入れないのは初めてでした。

また、礬砂によって和紙の感触や絵具の塗り心地も随分変わることも実感しました。

岸本裕子 「結の祭り」

使用和紙：「栞紙」一双厚め（石州和紙久保田）

今年は、世界中が思いもかけない事態となり、テレビで各地の映像を見る度に『地球はひとつ』と、改めて実感しました。今まで訪れた国々、とりわけ辺境の地に住む人々との出会いが懐かしく、描いてみたくなりましたが、表現するのは本当に難しく、思ったことの半分どころか、十分の一も出来ません。お祭りの衣装は美しい手仕事で彩られ、厳しい暮らしながら、心からの笑顔が絶えず、いつも敬う気持ちが湧いてきます。幼い子供たちに明るい未来や希望をと、祈るばかりです。

【石州和紙についての感想】

他の雲肌麻紙と並べて、同時にドーサを引いてみましたところ、液の浸み込み方の違いにびっくりしました。麻紙はサーッと浸み込み、頂戴したこの栞紙は、じっくりゆっくりと… 繊維が動いているようで『和紙は生きものだ』と感動を覚えました。紙の内に、柔らかい光が在るような色調があまりにも美しいので、地色を残したいと最後まで粘りましたが、やはり叶いません。一双ながら厚く漉いて下さって、まことに丈夫です。絵の具を置きにいても、時にはね返されるような力強さ、この紙に負けた感があります。もっともっと馴染んで、紙に認めてもらえるようになりたいです。



桑野むつ子 「青い花びら」

使用和紙：「石正紙」二双特厚（石州和紙久保田）

無常の世界の中で その時の一瞬一瞬に美を感じる。
散りゆくことは 終わりではなく 前進なのかもしれない。

【石州和紙についての感想】

描く時、弾力のある感触が心地よい。
今回、最初から最後まで2本の線が紙の表面にあり気になった。

庄田達生 「初夏の風」

使用和紙：「石正紙」二双特厚（石州和紙久保田）

去年、この会に古くからの友人のKさんが素適な少女像を出品されました。（今年も展示されるそうです）学生の頃創画会デッサン会、当時、今は亡き岡崎國夫、小嶋悠司、岡崎忠雄各氏や、石本正先生も参加されている中、私は創画会デッサン会下手の一人と揶揄されてました。Kさんは当時からデッサン力は確かで、あの作品は少女が未知なる神秘的な物を見た驚きの瞬間が実にみごとに表現されています。私は作家宮本輝の河三部作『蛭川』主人公の少女が母方の郷里、富山の神通川の上流に百姓の爺さんに連れられて蛭の羽化を見たラストの描写を思い浮かべました。今回Kさんの人物画に刺激され、無謀にも人物を描きました。初夏の爽やかな風の中、麦畑に女性を立たせましたが…。天国で石本正先生も苦笑されているかも知れません。

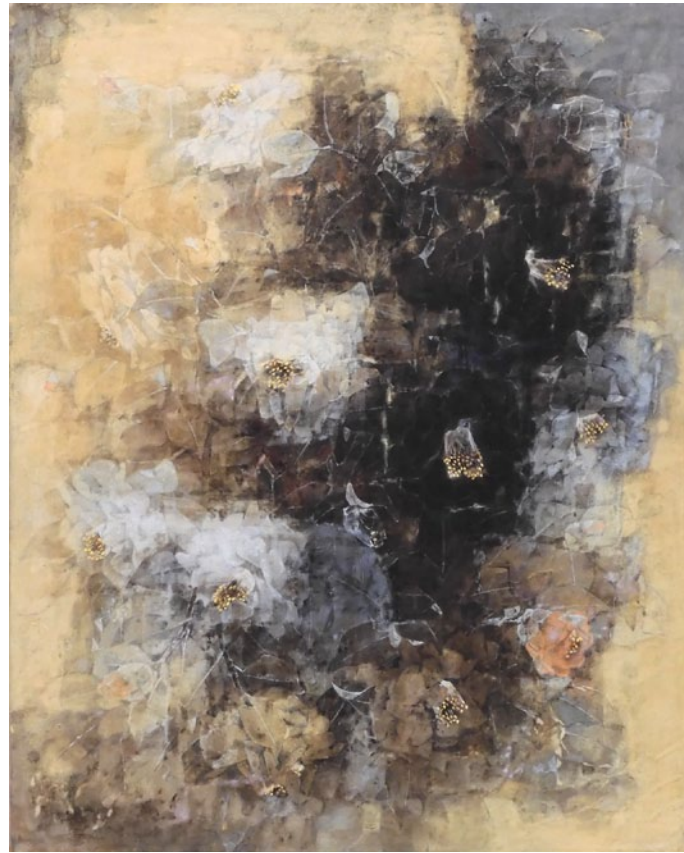
【石州和紙についての感想】

今回も素適な石州和紙を使わせていただき、まずは感謝です。せっかく50号の大きさの紙ですので、自信は無かったですが人物を描きました。

絵具が紙に吸い取られる様によく乗ります。不器用でかわが濃くよく紙を破りましたが、まったく心配なく、とても描きやすかったです。石本正先生もよく使用されていた和紙、提供して下さった方には、まだ、まだの作品で申し訳ない思いです。

大変な手仕事の紙造りの工程のご苦勞、心より御礼申し上げます。有難うございました。

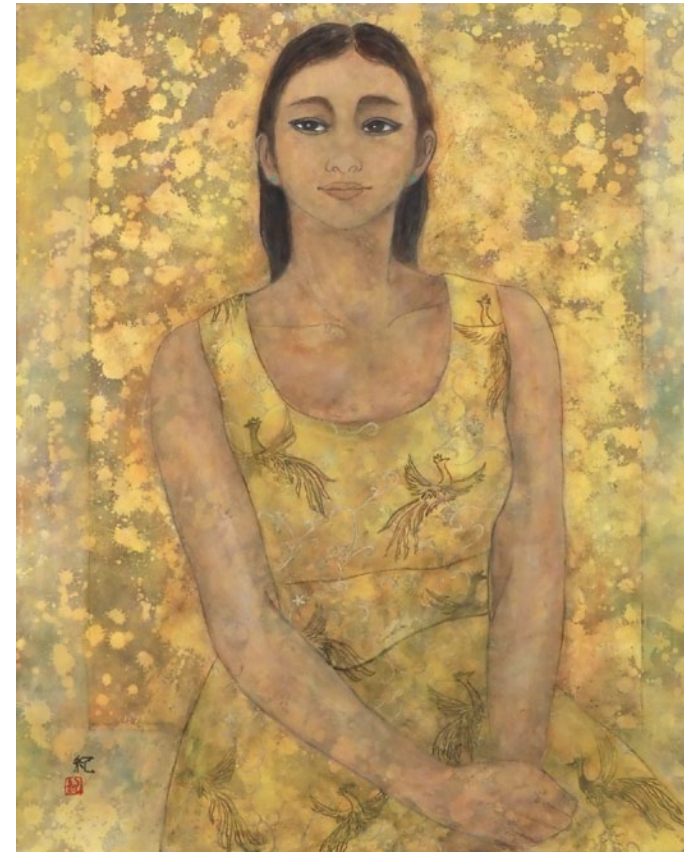




あかしがた
多留裕二 「椿・明石潟」
使用和紙：「石州特種判 -131」 三双（西田製紙所）

早いもので今回が 10 回展になるのですね。いつも、いくつになっても悩みながら描いています。作りものには違いないのですが、うそでなく本物の絵を、少しでもリアリティの感じられるものを、と…。江戸時代からの名花といわれている明石潟という品種名の大輪の椿。本来は濃い桃色の花なのですが、晩春の夕間暮、このように感じるほんの一刻の心象を絵にしてはおもしろいのではないかと、筆を取りました。

【石州和紙についての感想】
いつものことながら貴重な銘紙を使用させて頂き有難うございます。本来の風合いを生かした使い方には程遠いのかも知れないのですが、まずは丈夫なものを選びたいと思っています。ドーサの回数を多めに引くと強度が増すようで安心して使っております。



田村紀美枝 「時」
使用和紙：「石正紙」 一双特厚（石州和紙久保田）

このモデルさんには、宮島線の電車の中での出会いでした。明るい愛らしさに魅かれ、思いきってお声をかけモデルをお願いしました。笑顔で快く引受けて下さいました。ブラジルから仕事で来広、広島に滞在中とのこと。人物画は苦手ですが、夢中でデッサンさせていただきました。うれしく良い思い出になりました。

【石州和紙についての感想】
昨年と同じ久保田和紙工房様の和紙をお願いいたしました。薄手の紙の良さを裏からの彩色で活かせる事が出来たらと、まず、裏側からの墨入れて下仕事から始めました。久し振りの人物なので、どう仕上げるかちょっと心配です。

谷保玲奈 「出るために見る夢VI」
使用和紙：「石正紙」 二双特厚
（石州和紙久保田）

紙の持つ温かみを生かしたいと思い、色から着想を得つつ描きはじめました。何か生まれ出る前の生暖かい世界を描きたいと思い、進めました。

【石州和紙についての感想】
今回は前回感じた石正紙の表層の柔らかさを生かしたいと思い、生の紙に色を置き、そこから着想を得て描きました。にじみと岩絵の具の間をつなぎつつ紙の美しさが出るよう努めました、まだ紙の表現の幅が出しきれず、引き続き可能性を探って行かなければと思いました。



中野嘉之 「茜」
使用和紙：「石正紙」（石州和紙久保田）

箱根の画室に移り、20年以上になります。常日頃から、周囲の樹々に慣れ親しむ中、茜空と水辺の美しさを作品にしたいと思っておりました。墨と、本朱と、紙の地肌を活かした作品にしたいと思い、〈実感した空気の風を…〉感じたい、と願っております。

【石州和紙についての感想】
久保田様と美術館から、石正紙を送っていただき、3種類の中の、薄めの紙を使用いたしました。他の楮紙と異なり、紙の表面が滑らかで、粒子の細かい絵の具の発色、墨の発墨等に適していると思っています。以前は、雲肌麻紙を使っていましたが、墨の仕事が多くなり、楮紙のなめらかな紙当りを好んでいます。





中原麻貴 「木と少女」

使用和紙：「石正紙」二双特厚（石州和紙久保田）

大きな一本の木を見上げていると、幹が遠くへ続く一本の道に見える時があります。この道の先には何があるのだろうか…誰かが待っているのだろうか…そんなことを思いながら木を見上げる時間が好きです。

【石州和紙についての感想】

今年も同じ和紙を使わせていただきました。画面を削ったり擦ったり、そういう描き方をすると私の相性がいいので気に入っています。いつもありがとうございます。



西久松吉雄 「供物」

使用和紙：「草木染漉きドーサ紙」
（西田和紙工房）

様々な石州紙の質感に触発されながら、描く対象を選択してきました。今回も紙質をどうすれば生かせるかと自問自答しながらの制作となりました。

【石州和紙についての感想】

楮紙と墨の関係、墨と岩絵具と紙の色や余白の関係などを思考しながら創作していく中で、この草木染楮紙の紙肌と色は、描く工程で心地良い感覚を味わえました。

中村文子^{りよと} 「旅途をゆく」

使用和紙：「白仙紙」二双（かわひら）

時を重ねた古き館の佇まい、通りの向こうは広場だろうかと思いつつ、この場の様子に惹かれました。鄙びた風情に、何気無い癒し、趣を感じました。

【石州和紙についての感想】

石州和紙を使わせていただき、いつも強さと共に風合いのやさしさを感じます。水分をしっかりと吸い込むのが印象的でした。描く度に、質の良さを実感し、感謝しています。



西久松綾 「舞」

使用和紙：「楮紙」二双特厚（西田和紙工房）

私がまだ小学生の頃、家族でよく地元の釣り堀へ行きました。幼い頃から魚類図鑑が絵本代わりだった私にとって、それはとても楽しいイベントでした。竿に伝わる鯉の強い引きと生命力、釣り上げた時の達成感や、そこに住みついた小さな命たち。体験や彼らの姿は私の最初期の人間性を創り出してくれました。ある日のこと、強いあたりを感じ、竿を一気に引き上げました。苦戦する中、水中から姿が見えた瞬間、これまでにない高揚を覚えました。日の光を浴び、金色に輝く、美しい緋色の鯉。鮮やかな思い出に向かって“少年”は今も釣り糸を垂れています。

【石州和紙についての感想】

しっかりとした厚みがあり、力強い印象の紙でした。画面に墨を入れると馴染み良く、私の表現にとっても合っていました。すばらしい紙をありがとうございました。





藤本直司 「ラクリメⅧA」
使用和紙：「石正紙」二双特厚
(石州和紙久保田)

洛西古寺。
滅びゆく花と風になびく竹。
私にとってのピエタ…。
スターバト マーテルまで聴こえ…。

【石州和紙についての感想】
全く同一絵具を
壁が乾くまでの時間差で
使うと全く違う
千変万化と色調効果となる…その
フレスコ画のように
この紙の鉱物層も
そうではないか…と。



宮川典子
「うみの中の蜃気楼Ⅱ～祈り～」
使用和紙：「石正紙」二双特厚（石州和紙久保田）

うみの中での様子が次々と目に浮かび祈りを感じました。
ユリを手にユリが語りかけてきました。
ある少女(優里さん)との出会い、当時3歳の少女が14歳に。
生まれながらの障害で一生起き上がれなく、言葉も交わせないが絵を通じて心で語ることができます。
その少女は屈託のない素敵な笑顔を届けてくれます。
心が純粋で全てを見通しているかのような。
少女優里さんの幸せを願って。

【石州和紙についての感想】
この度は、石州和紙久保田さんに石正紙 二双特厚（ドーサ引き）を漉いていただき心より感謝申し上げます。頼りがいのある心強い和紙との出会いに大変喜んでおります。不思議なことがあり、最初イメージしていたサイズでは和紙が心地よく思わなかったようで、最終和紙がサイズを決めたような感覚を味わいました。和紙はしゃべりませんが、和紙にも意思があるようです。漉いていただいた和紙への愛が和紙から伝わって来ました。ご提供いただき有り難うございました。

牧野良美 「朝」
使用和紙：「人天紙」二双特厚
(西田和紙工房)

山合いの“花の里”は、オアシスのような所です。五月の山の空気に包まれて、咲き乱れるようなクレマチスに出逢いました。品種は、洋花ですが、和の趣も感じます。リズムカルな花の姿を描きたいと思いました。

【石州和紙についての感想】
渋い美しい風合いの紙で、張り込んでながめていたら、でんと貫禄があり、絵の具でうまるのがおしい気がしました。紙質の良さを、描きながらも感じました。

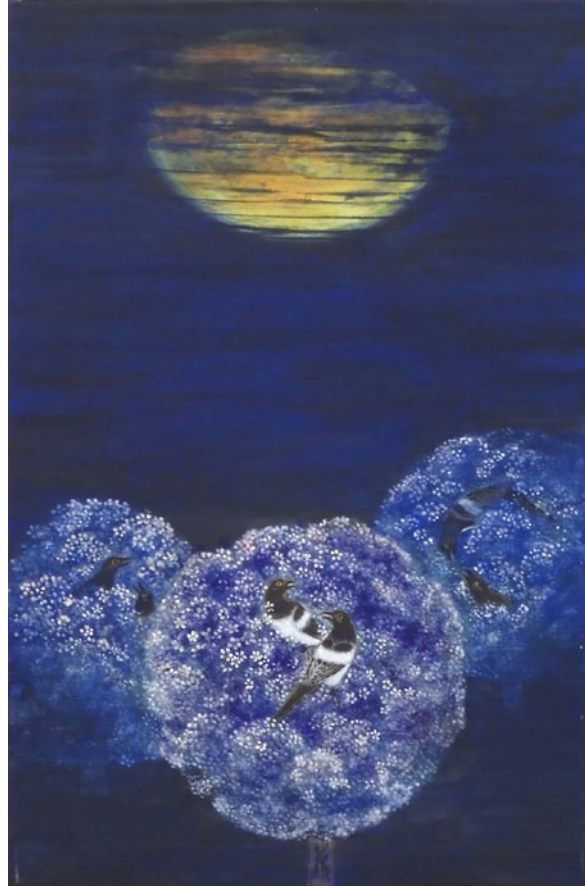


吉川弘 「湖畔」
使用和紙：「人天紙」二双特厚
(西田和紙工房)

喧騒な町から外れた湖畔には人影なく、穏やかな気配が漂っていました。遠くまで静かに広がる湖面に安らぎを求め、制作しました。

【石州和紙についての感想】
顔料を置く感触が良く、又乱暴な刷毛使いをしても、しっかり定着してくれました。
今回初めて使わせて頂きました。有り難うございました。





吉村和起 「ラダックの旅から」
使用和紙：「楮紙」一雙厚め
(石州和紙久保田)

ラダックは南にヒマラヤ山脈、北にカラコルム山脈にはさまれたインド最北の山岳、高原地帯で、インド領に属していた為チベットでは失われてしまった仏教文化が残されています。春、杏の時期にはじめて訪れて、澄んだ空気と満開の杏の花からカササギがフワリと飛びたつ羽音が忘れられず、更に奥地のザンスカールに行ってきました。街路樹に群るカササギも多数見られ、同じテーマで三作目になりますが、まだまだ描ききれません。

【石州和紙についての感想】

「これが一雙」とは思えない程厚く漉いてくださったこと感謝しています。強く丈夫で安心して描けますが、「素地の美しさを活かすことができたら」と思いながらまだできていなくて残念です。

石本正と石州和紙

石本正「木津娘」
2005（平成 17）年
使用和紙：「石正紙」二双（石州和紙久保田）

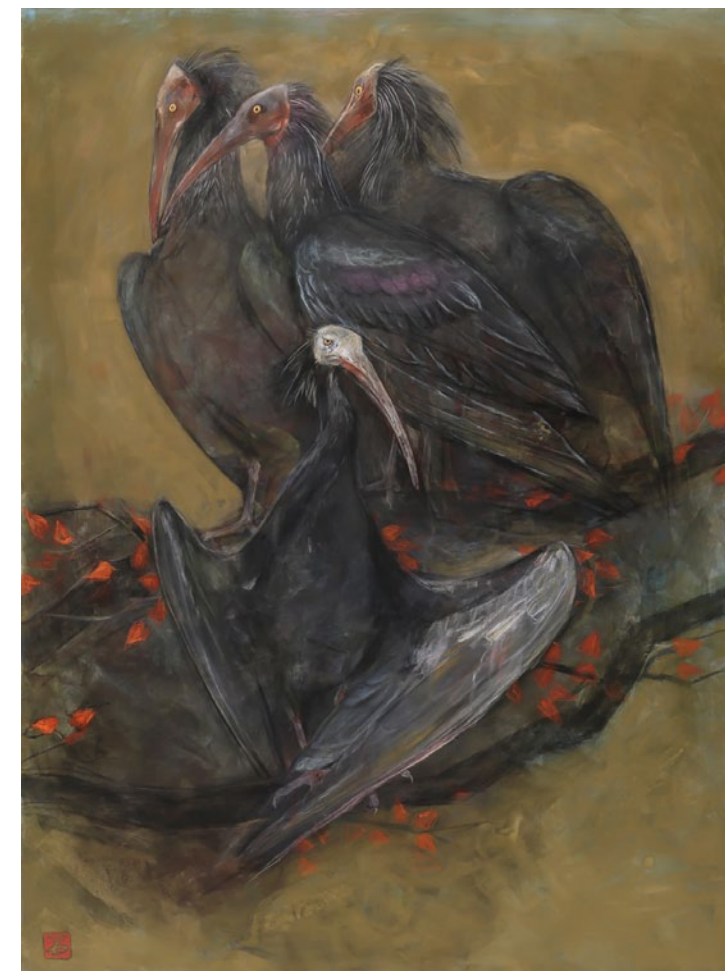


石本正「孤独」
2007（平成 19）年
使用和紙：「石正紙」二双（石州和紙久保田）



石本正「天王牡丹」
2007（平成 19）年
使用和紙：「石正紙」二双（石州和紙久保田）

石本正「ホホ赤トキ 戯れ」
2011（平成 23）年
使用和紙：「石正紙」二双（石州和紙久保田）



石州和紙

石州和紙の里

石州和紙、石州半紙は原料に楮・三桠・雁皮の靱皮繊維と呼ばれる外皮の内側の柔らかい部分と、補助材料として「トロロアオイ」の根の粘液を使い、漉き上げられる。

中でも最も生産の多い石州半紙（楮紙）は、日本の手漉き和紙の中でも特に強靱な特質を誇り、現在では美術品修復の現場でも国内外を問わず広く使用されている。この強靱さの要因のひとつは原料の石州楮にある。山に囲まれた豊かな石見の大地で育つ楮は、その外皮の繊維が他地方の楮に比べて光沢があって細く長いという。また、良質な楮を育てる大地は紙すきに適した軟水を生み、古代から脈々と受け継がれてきた技術によって漉き上げられる。楮を育て、原料を加工し漉き上げる工程は、江戸時代に編纂された「紙漉重宝記」に描かれた光景とほとんど変わらない。石州和紙は自然とともに生きてきた石見の人々の文化そのものを反映したものであるともいえるだろう。



「紙漉重宝記」（1798（寛政10）年）より

1969（昭和44）年 国の重要無形文化財に指定

1989（平成元年）年 経済産業大臣指定「伝統的工芸品」に指定

2009（平成21）年 ユネスコ無形文化遺産の保護に関する条約に基づく「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に「石州半紙」が記載

2014（平成26）年 ユネスコ無形文化遺産の保護に関する条約に基づく「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に、「和紙：日本の手漉き和紙技術」として『石州半紙』『本美濃紙』『細川紙』が記載



楮栽培

原木剥ぎ

黒皮乾燥

黒皮そぞり

煮熟



塵取り

叩解

トロロアオイ

紙漉き

干板貼り

天日乾燥

（資料提供：石州和紙会館）

今回使用された和紙について

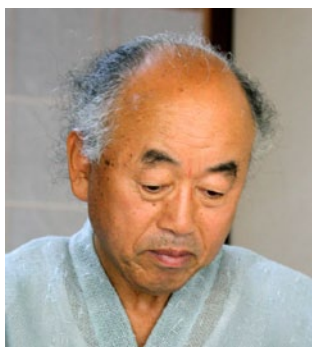
『石州和紙に描いた日本画展』は、作家の方々や和紙関係者、地元の皆様のご支援をいただき、このたび第10回目を迎えることができました。当館では、これまでに出品していただいた作家の方々に和紙の使用感を伺い、独自に調査を行ってきました。

2012年春、この調査結果を地元の和紙職人に提供し、本展で使用する石州和紙の制作をお願いしました。そして、強靱で独特な風合いを揃えた趣の異なる4種類の石州和紙、「白仙紙」・「石正紙」・「人天紙」・「石州特種判-131」が提供されました。第3回展以降これらの和紙の中から描きたい紙を選んでもらい、作家の好みに合わせて厚みを変えて漉かれています。中にはこの4種類以外の紙を試してみたいという方もおられ、石州和紙を使った日本画表現の可能性が一層広がりつつあります。

本展を通じて、さらに作家と石州和紙の距離が縮まり、地元の伝統文化と芸術を愛する方々の懸け橋となることを願っています。

和紙名	工房	原料	概要
白仙紙	かわひら	楮100%	煮熟に一般的なソーダ灰ではなく、石灰を使用。このことにより、漉きあがった紙は長い時間をかけて白く変化する。絵を描くと、顔料の乗っていない部分のみ白くなるため、絵が浮き上がったようになる。また、吸水性も高い。
石正紙	石州和紙久保田	三桠・雲母	短い繊維の三桠を原料とし、さらに繊維の目を埋める雲母を漉き込む事で、表面を平滑にしている。筆運びや絵具の定着・発色の良さを意識している。
人天紙	西田和紙工房	楮90～80% 三桠10～20%	繊維の長い楮と、短い繊維の三桠を混合することにより表面を平滑にし、絵を描く際の筆運びの滑らかさを意識している。
石州特種判-131	西田製紙所	楮100%	古来からつたわる原料加工を厳密に守り、より石州和紙らしい一枚を提供できるよう意識している。

各工房職人紹介



かわひら

川平 正男 [1941年生]

かわひら まさお

石州半紙技術者会会員・石州和紙伝統工芸士

長年紙漉きに携わり、一枚の和紙を素材として生かし、アイデア、加工を施し新しい品物作りに励んでおります。自然に易しく公害もない靱皮繊維を使用しての紙布や編み物は夏は涼しく、冬は暖かい商品です。新しいものばかりを作り出すのではなく、昔からある良いものを再現させる人生を今後も歩み続けたいと思っております。



石州和紙久保田

久保田 彰 [1950年生]

くぼた あきら

石州半紙技術者会会員・石州和紙伝統工芸士

1974年より父・久保田保一を師に、手すき和紙製造を始める。石見の風土を生かした特徴ある和紙を追い求め、先人たちが残してくれた石州半紙の技術・技法を守り続け現在の生活様式にマッチできる和紙を漉き続けたいと思っております。そして、今後の石州の伝承者育成に人生を捧げます。



西田和紙工房

西田 誠吉 [1955年生]

にしだ せいぎ

石州半紙技術者会会員・石州和紙伝統工芸士

1981年より家業の石州和紙製造に従事し、7代目を継承する。地元の楮を使用し、原木から皮とり、白皮加工も一貫して自家で行い、和紙づくりを行っています。純粋な和紙造りを継承しております。良い和紙は良い原料からを心に刻みながら、こつこつ黙々と紙漉きに取り組みたいと思っています。



西田製紙所

西田 裕 [1972年生]

にしだ ゆう

石州半紙技術者会会員・石州和紙伝統工芸士

1993年より叔母西田喜栄に師事し、石州和紙製造に従事する。原料作りから紙漉きまで、一枚の和紙に至るまでの一貫とした手作業を守りつづけています。書画用紙を主体に日常生活を豊かに彩るお手伝いできる和紙作りに励み、和紙と触れ合うことでしか得られない特別なものを求め、追求していきます。

第10回 石州和紙に描いた日本画展 出品作家略歴

第9回 石州和紙に描いた日本画展 出品作家略歴

いけしょうじ	じゅん
池庄司 淳	（1957～ ）

1957年	広島に生まれる
1982年	京都日本画専門学校専攻科中退
1983年	第9回京都春季創画展初入選（以後出品） <p>第10回創画展初入選（以後出品）</p>
1986年	「京の四季」展入選 京都府買上
1997年	現代花鳥画展出品（松柏美術館）
2001年	第7回京都日本画家協会新鋭選抜展 <p>京都文化博物館賞 京都府買上</p>
2003年	京都画壇花鳥画の流れ展（松柏美術館）
2008年	心で描いた日本画展出品（浜田市立石正美術館他） <p>第34回春季創画展春季展賞（第45回、第46回）</p> <p>第35回創画展奨励賞</p> <p>第7回雪舟の里 総社 墨彩画公募展特選（岡山県総社市）</p>
2016年	第1回松柏美術館日本画展 入賞 <p>（第2回入賞、第3回優秀賞／松柏美術館）</p>
2017年	第22回松柏美術館花鳥画展 入賞 <p>（第23回入賞／松柏美術館）</p>
現在	創画会会友 京都芸術大学通信教育非常勤講師

いけだ	ちかこ
池田 知嘉子	（1953～ ）

1953年	京都市に生まれる
1975年	日展出品（以後1979年まで出品）
1977年	京都日本画美術展新人賞
1978年	京都市立芸術大学美術学部日本画専攻科を修了
1981年	日仏現代美術展二席
1982年	東京セントラル美術館日本画大賞展 優秀賞
1983年	個展（東京セントラル絵画館）
1986年	春季創画展春季展賞（1991,2006,2008,2009年にも受賞）
2003年	創画展奨励賞
2009年	創画展 創画会賞（同2015年）
2010年	京都府画家協会選抜展 画家協会賞
2012年	個展（京都ノアートライフみつはし）
2014年	隣々展（石股昭氏との二人展・京都ノギャラリー鉄斎堂）
2019年	個展（Art Space-MEISEI）
現在	創画会准会員

いとう	たつお
伊藤 はるみ	（1948～ ）

1972年	京都市立芸術大学美術学部日本画科卒業
1976年	春季創画展 春季展賞受賞（以後4回受賞）
1982年	京都日本画選抜展（京都府買上）
1984年	東京セントラル美術館日本画大賞展招待 佳作（'86同賞）
1985年	京展 紅賞受賞 <p>京都府美術展 奨励賞受賞</p> <p>京都画壇日本画秀作展</p>
1988年	「いのち賛歌・日本画100人展」
1992年	京都府文化賞 奨励賞受賞（海外研修）
1994年	高島屋女流画家展（以後毎回）
1999年	第2回NEXT展（以後毎回）
2013年	第一回星流の会展出品（以後2015年最終展まで出品）
2017年	日本画グループ星辰 出品（2019年最終展まで出品）
現在	無所属

うえの	ふじろう
上野 富二郎	（1941～ ）

1941年	福井県に生まれる
1966年	京都市立美術大学（現 京都市立芸術大学）日本画科卒業
1968年	京都市立美術大学（現 京都市立芸術大学）専攻科（日本画）修了
1962年～現在	上村松篁、秋野不矩、石本正をはじめとする創画会系作家に師事
1965年	新制作日本画部に初入選、以後創画会に移行後現在まで継続して出品
1976年	石本正氏企画「ヨーロッパ美術の旅」に参加、フランス、イタリア、スペインなどのロマネスクの絵画・建築及び中世の街の風景から多くを学ぶ（1980,1985年にも同企画に参加）
1990年～	ギャラリー三条（京都）にて「上野富二郎展」開催 <p>以後2007年まで毎年個展</p>
1992年	滋賀県立近代美術館企画「湖国美術作家シリーズ 滋賀の日本画」展出品
1998年	福井県大野市主催「上野富二郎絵画展」開催 <p>150号20点を含む約40点を発表</p>
2002年	文化庁主催「第36回現代美術選抜展」に「雪と梅」を出品
2005年	第28回、第31回について第32回創画展 創画会賞受賞「梅林春寒」会員推挙 <p>MIHOミュージアム・秀明文化財団による第15回秀明文化賞受賞</p>
2010年	現在 創画会会員

うにがめ	としひこ
雲丹亀 利彦	（1966～ ）

1966年	兵庫県に生まれる
1989年	大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業
1998年	京都日本画家協会新鋭作家選抜展にて京都府知事賞受賞 <p>（以後2001年京都日本画家協会賞）</p> <p>第25回創画展にて創画会賞受賞（以後1999,2000,2001年）</p> <p>姫路市芸術文化賞芸術年度賞受賞</p> <p>創画会会員推挙</p>
1999年	加西市文化連盟芸術文化功労賞受賞
2001年	兵庫県芸術奨励賞受賞
2003年	加西市文化連盟芸術文化功労賞受賞
2004年	兵庫県芸術奨励賞受賞
2005年	兵庫県立美術館ギャラリーにて「雲丹亀利彦展」開催
2013年	「地歩を固めた作家たち」雲丹亀利彦展 <p>（西脇市岡之山美術館／兵庫）</p>

2016年	京都現代作家展「エスキースからの展開 雲丹亀利彦」（京都府立堂本印象美術館）
2018年	「刻の印象 雲丹亀利彦展」（三木美術館／兵庫県姫路市）

現在	京都精華大学芸術学部教授 創画会会員
----	--------------------

うつみ	ふくひろ
内海 福溥	（1947～ ）

1947年	京都府に生まれる
1972年	多摩美術大学日本画科卒業
1973年	新制作展（現創画会展）日本画部初入選 以後出品
1974年	多摩美術大学大学院日本画科修了
1978年	第4回京都春季創画会展 春季展 <p>（第7回、25回、35回／同春季展賞）</p> <p>東京セントラル美術館日本画大賞展 優秀賞</p> <p>1986年 個展 東京セントラル美術館絵画館</p> <p>2009年 第36回創画会展 創画会賞</p> <p>2010年 第21回臥龍桜日本画大賞展 優秀賞（'12 奨励賞、'13 優秀賞）</p> <p>2011年 第5回奈良万葉日本画展 準大賞</p> <p>2012年 第6回前田青邨記念大賞展 審査員特別奨励賞</p> <p>2017年 第22回松柏美術館花鳥画展 優秀賞</p> <p>2020年 第3回松柏美術館日本画展 優秀賞</p>
現在	創画会 准会員

おくむら	みか
奥村 美佳	（1974～ ）

1974年	京都市に生まれる
1997年	創画展（'02 '12 '18年創画会賞／'03、'06年奨励賞）
1999年	春季創画展（以後毎年出品／'13、'14年春季展賞）
2003年	京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻 博士課程修了（学位修得） <p>文化庁現代美術選抜展</p> <p>個展（佐藤美術館）</p> <p>第3回東山魁夷記念日経日本画大賞展大賞受賞（'08年出品）</p> <p>両洋の眼展（～'09年）</p> <p>京都市芸術新人賞受賞</p> <p>京都日本画新展 優秀賞受賞</p> <p>美の予感展（高島屋）</p> <p>桃源万歳展（岡崎美術博物館）</p>
2006年	個展（佐藤美術館）
2007年	第3回東山魁夷記念日経日本画大賞展大賞受賞（'08年出品）
2009年	京都日本画新展 優秀賞受賞
2011年	美の予感展（高島屋）
2012年	桃源万歳展（岡崎美術博物館）
2016年	京都府文化賞／奨励賞
現在	創と造（～'19年／五都美術連合） <p>京都市立芸術大学准教授、創画会会員</p>

おちあい	ひろこ
落合 浩子	（1962～ ）

1962年	兵庫県に生まれる
1982年	嵯峨美術短期大学卒業
1986年	京都精華大学卒業 <p>春季創画展入選（以後出品）京都市美術館</p> <p>創画展入選（以後出品）東京都美術館・京都市美術館</p> <p>京都精華大学大学院修了</p> <p>春季創画展春季展賞（同'06年）京都市美術館</p> <p>京都日本画家協会新鋭選抜展京都新聞社賞</p> <p>（同'99年知事賞）京都文化博物館</p>

1991年	創画展入選（以後出品）東京都美術館・京都市美術館
1993年	京都精華大学大学院修了 <p>春季創画展春季展賞（同'06年）京都市美術館</p> <p>京都日本画家協会新鋭選抜展京都新聞社賞</p> <p>（同'99年知事賞）京都文化博物館</p>

1995年	個展 京都（同'03年）ギャラリー中井
1998年	個展 東京（同2001,2003,2005,2007年）柴田悦子画廊
2000年	京都 日本画新展出品（美術館えき）（'19年 二条城）
2009年	石州和紙に描いた日本画展（以後毎年）
2011年	個展 京都（同'19年）ギャラリー恵風
2016年	京都大覚寺蓮華殿天井絵花曼荼羅 奉納
2017年	創画会会友 京都日本画家協会会員
現在	

かじおか	ももえ
梶岡 百江	（1977～ ）

1977年	京都生まれ
2000年	臥龍桜日本画大賞展 入選（同'06年、'08年奨励賞、'09年優秀賞） <p>創画展 入選</p> <p>（同'01、'02、'04年以降毎年、'07年奨励賞、'09、'10、'11年創画会賞）</p> <p>春季創画展 入選（同'02、'04年以降毎年、'07年春季展賞）</p> <p>京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻修士課程修了</p> <p>心で描いた日本画展（島根、静岡、京都）</p> <p>梶岡百江展「トワイライト・トワロード」（京都大丸アートのスポット）</p>
2001年	梶岡百江展「想景」（やぶさいそうすけ、東京）
2003年	梶岡俊幸・梶岡百江 二人展（gallery サラ、滋賀）
2008年	第5回東山魁夷記念日経日本画大賞展（上野の森美術館）
2010年	日中美術展 - 東洋美術の未来を探る - 日本画と工筆画 -（東京美術倶楽部）
2011年	革新表現に挑む女流画家たち 創画会の原点・今・明日（浜松市秋野不矩美術館）
2012年	創画会70周年記念展（飯田市美術博物館、他巡回）
2016年	日本画山脈 再生と革新～逆襲の最前線（新見美術館、他巡回）
2017年	創画会会員 京都芸術大学非常勤講師
現在	

きしもと	ゆうこ
岸本 裕子	（1949～ ）

1949年	京都市に生まれる
1973年	京都市立芸術大学美術学部日本画科を卒業
1976年	京都府日本画美術展新人賞≪白と黒で≫
1977年	日展初入選 <p>京都府日本画選抜展≪冬の木≫買上げ</p> <p>京都府日本画選抜展≪アンデスの街≫≪クスコの女≫買上げ</p> <p>東京セントラル美術館日本画大賞展佳作賞</p> <p>1989年 大三島美術館第一回京都新鋭選抜展奨励賞</p> <p>2001年 個展（けいはんなプラザアートサロン）</p> <p>2003年 個展（ギャラリー青い風）</p> <p>2007年 日本画の未来展（秋野不矩美術館、蘭島閣美術館）</p>
現在	日展会友

くわの	こ
桑野 むつ子	（1949～ ）

1949年	京都府生まれ
1971年	日展初入選
1972年	京都市立芸術大学日本画科卒業
1974年	同大学専攻科修了
1982年	個展開催
1983年	山口華楊主催の晨鳥社入会

京都市長賞2回
日春展 日春賞3回
日展京都展 京都新聞社賞
京都日本画家協会選抜展 読売新聞社賞
日展特選

現在	京都日本画家協会会員 日展会員 新日春会会員
----	------------------------

しょうだ	たつお
庄田 達生	（1948～ ）

1948年	京都市に生まれる <p>京都教育大学 特修美術科（日本画専攻）卒業</p> <p>京都教育大学 教育専攻科修了 教育研究生修了</p> <p>京展、関西展 受賞、京都日本画美術展、京都日本画協会作品展、他グループ展多数</p>
現在	創画会

たどめ	ゆうじ
多留 裕二	（1949～ ）

1949年	大阪府に生まれる
1976年	多摩美術大学日本画科卒業
1980年	創画展初入選以後出品
1992年	いのち賛歌京都市日本画100人展入賞
1995年	春季創画展 春季展賞
2000年	川端龍子賞展入選（同2002、2004年） <p>第6回京都新鋭選抜展出品（同2001年）</p> <p>第2回万葉日本画展入選</p> <p>京都日本画家協会選抜展 読売新聞社賞、創画展奨励賞</p>
2005年	春季創画展 春季展賞
2006年	創画会会友
2009年	
現在	

たにほ　れいな　谷保　玲奈（1986～ ）

1986年　東京生まれ
2009年　守谷育英会美術奨励金　推薦受賞
2010年　第20期佐藤美術館奨学生
2011年　碧い石見の芸術祭 2011 美術大学選抜日本画展 浜田市長賞受賞
2012年　多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画領域修了
第5回東山魁夷記念　日経日本画大賞　入選
2014年　第25回五島記念文化賞　美術新人賞
ARKO Artist in Residence Kurashiki, OHARA 作品公開／大原美術館
2015年　第6回東山魁夷記念　日経日本画大賞　選考委員特別賞受賞
2016年　第52回神奈川県美術展　神奈川県立近代美術館賞受賞
2017年　個展「ウブスナ」（日本橋高島屋ギャラリー X）
2018年　第7回東山魁夷記念　日経日本画大賞　入選
個展「共鳴」NAP New Artist Picks（横浜美術館）
2019年度　若手美術在外助成にてメキシコへ一年間の研修予定
（公益財団法人ポーラ美術振興財団）

たむら　きみえ　田村　紀美枝（1940～ ）

1940年　鳥根県益田市出身
1985年　広島県美展　奨励賞（同1986年）
1989年　日本画 21世紀展　優秀賞
1990年　同上、21世紀展受賞者小品展（そごう／横浜銀座店）
1990年　広島県美展　大賞
2003年　日展　初入選（以後入選14回）
2004年　日春展　初入選（以後入選7回）
2005年　八千代の丘美術館入館（2005年4月～2006年3月）
2010年　日展　全国巡回作品となる（同2011年）
2015年　日展会友に推挙
改組第2回日展　特選
2016年　アートアイ・キサ（広島県三次市）にて個展
その他　個展、グループ展
現　在　日展会友

なかの　よしゆき　中野　嘉之（1946～ ）

1946年　京都府京都市に生まれる
1967年　多摩美術大学在学中に新制作協会展に初入選する
1972年　新制作協会春季展で春季展賞を受賞する
新制作協会展で新作家賞を受賞する
1974年　新制作協会を経て新たに創した第1回創画展に出品する
1984年　所属団体や師弟関係にとられない若手日本画の研究会「横の会」を結成（以後’93年最終展まで）
1992年　MOA美術館岡田茂吉賞で絵画部門優秀賞を受賞する
箱根にアトリエを移す
1994年　京都美術文化賞を受賞する
1996年　伊藤彬、中島千波、林功とグループ「目」を結成（以後’15年最終展まで）
2005年　前年の個展「天空水」で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞
2006年　MOA美術館岡田茂吉賞で大賞を受賞
2012年　中島千波、畠中光享と若手日本画家を奨励する公募展「Artist Group 風」を結成

ほか個展多数

現　在　多摩美術大学名誉教授

なかほら　まき　中原　麻貴（1979～ ）

1979年　山口県生まれ
2001年　第10回奨学生美術展（佐藤美術館）
2003年　創画展（同～’14年／’06、’08年　奨励賞）
2004年　京都造形芸術大学大学院芸術研究科修了
2009年　日本画新展（同’10、’11年）
個展（京都・山口）
グループ展「そよぎの会日本画展」（東京）
グループ展「刻の会」（同～’14年／東京）
2010年　グループ展「刻の会」（同～’14年／東京）
2012年　個展（下関市立美術館）
2014年　個展（京都）（同’15年／山口）
2016年　第3回続京都日本画新展
その他グループ展など

なかむら　ふみこ　中村　文子（1951～ ）

1951年　兵庫県神戸市に生まれる
1973年　京都市立芸術大学日本画科卒業
1976年　日春展 初入選（以後、日春賞3回、奨励賞7回受賞）（※2017年から新日春展となる）
日展　初入選（以後、特選2回受賞’85、’96年）
1989年　山種美術館賞展　優秀賞
1993年　文化庁芸術家在外研修員として一年派遣（イタリア）
現　在　日展会員、新日春会会員

にしひさまつ　よしお　西久松　吉雄（1952～ ）

1952年　京都に生まれる
1979年　京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了
第4回京都日本画美術展新人賞　海外研修派遣
京都府ギャラリー／京都
1994年　第4回京都新聞日本画賞展大賞　大丸ミュージアム KYOTO/ 京都
1995年　第13回山種美術館賞展優秀賞　山種美術館／東京
第22回創画展「古墳のある風景」文化庁優秀美術作品買上げ
日本画の新世代展’99　大丸ミュージアム TOKYO/ 東京他
現代日本絵画の展望展　東京ステーションギャラリー／東京
2000年　両洋の眼展　日本橋三越本店／東京他（同2003年松坂屋美術館／愛知他）
2010年　第23回京都美術文化賞　公益財団法人中信美術奨励基金
2014年　梅原猛卒寿記念―梅原猛と25人のアーティスト展
高島屋日本橋店／東京他
2015年　企画展「西久松吉雄展　祈りの地・古の風景」
浜田市立石正美術館／島根
2019年　企画展「西久松吉雄・綾・友花展」 中信美術館／京都
2020年　第38回京都府文化賞功労賞
現　在　京都成安学園理事・創画会常務理事・京都日本画家協会副理事長

にしひさまつ　りょう　西久松　綾（1989～ ）

1989年　京都府に生まれる
2011年　金沢美術工芸大学・日本画専攻　卒業
2014年　京都造形芸術大学大学院　ペインティング領域
芸術表現専攻日本画分野　修了
2012年　第30回上野の森美術館犬賞展　入選（同’13、’14、’15、’17年、内’13、’14、’17年賞候補）
第24回飛騨高山臥龍桜日本画大賞展　（同’18年）
2013年　第21回松柏美術館花鳥画展
2015年　第3回続・京都日本画新展　大賞（同’13、’14年出品）
京都府新鋭選抜展 2017(同’18年）
個展「風土の記憶」（ギャラリーヒルゲート1・2F　企画展）
2018年　第44回春季創画展　春季展賞
京都花鳥館賞奨学金 2017　最優秀賞
第45回春季創画展　春季展賞
京都日本画新展 in 二条城～100人の画家・嵯峨野線を旅して～ 出品
西久松吉雄・綾・友花展　～地のかたち・水のみぐみ・土のちから～（中信美術館企画展）
現　在　一般社団法人創画会会友、京都日本画協会会員

ふじもと　なおじ　藤本　直司（1950～ ）

1950年　京都府綴喜郡に生まれる
1974年　京都市立芸術大学日本画専攻科修了
1975年　イタリアに於て　ルネッサンス・フレスコ壁画模写
同・模写展（京都市立芸術大学第3次イタリア模写事業）
1976年　春季創画展 初入選（以後出品）
創画展 初入選（以後出品）
1977年　春季創画展 春季展賞（以後5回受賞）
1984年　イタリア・フィレンツェ日本画展
1997年　京展 初入選（毎日新聞社賞）
現　在　創画会所属

まきの　よしみ　牧野　良美（1948～ ）

1948年　京都府生まれ
1972年　京都市立芸術大学日本画科を卒業
1976年　創画展　初入選
1978年　東京セントラル美術館日本画大賞展　佳作賞
1980年　創画春季展　春季展賞
1995年　颯々展
1999年　大阪にて小品展
2003年　「日本画の未来」展（浜田市世界子ども美術館）
2007年　個展（ギャラリー青い風）
2012年　個展（近鉄百貨店上本町店）
2015年　「京に生きる琳派の美」展に出品
2018年　個展（あべのハルカス近鉄店）
現　在　無所属

みやがわ　のりこ　宮川　典子

京都市に生まれる
2004年　京都造形芸術大学大学院博士課程（後期）芸術研究科
芸術専攻（日本画）単位取得認定満期退学（現在：京都芸術大学）
1992年　東丘社入会　堂本元次に師事（’13年東丘社退く）
1998年　第7回川端龍子賞展入選
第33回日春展初入選（以後11回出品／’06、’12年日春賞／’17年第1回新日春展、以後毎年）
第30回日展初入選（以後12回出品）
フレスコ画家・高橋久雄氏の壁画制作事業に参加（同’10年／ユルスリーヌ塔附属小聖堂地下礼拝堂／フランス・オータン）
第17回/パリ国際サロン（パリ/コレクション・ブリヴェ美術館）
2011年　日本画きのう京あす展（京都日本画家協会創立70周年記念特別展）
2013年　京都日本画新展（美術館「えき」美術館　JR京都伊勢丹7階隣接）
2014年　第2回青嵐会展・京荀展（日本橋三越本店本館6階美術特選画廊/銀座のアート・スペース Vision）（同’15年）
第15回日本・フランス現代美術世界展～サロン・ドトーヌ特別協賛～入選（国立新美術館）
「京に生きる 琳派の美」琳派400年記念展 現在作家 200人による日本画・工芸展（京都文化博物館／’16年東京日本橋高島屋）
2019年　京都日本画新展 in 二条城・100人の画家・嵯峨野線を旅してー
現　在　日展会友　日春会准会員　京都日本画家協会会員

よしかわ　ひろし　吉川　弘（1954～ ）

1954年　京都市に生まれる
1981年　京都市立芸術大学日本画専攻科修了
1983年　創画会春季京都展・春季展賞（同1989、1994年）
1988年　京展　芸術文化協会賞（同1989年市長賞）
1989年　京都日本画家協会選抜展佳作（同1992年知事賞、1993年毎日新聞社賞）
1991年　創画展 創画会賞（同1994、1995、1996年）
次世代を担う作家展（同1993年）
文化庁主催現代美術選抜展（同1995、1996年）

1993年　山種美術館賞展（同1997年）
1995年　現代京都の日本画展
1996年　創画会会員推挙
1997年　美の予感
1998年　両洋の眼展（同～2006年）
2000年　新世紀をひらく美
2005年　京都美術文化賞受賞
現　在　創画会会員

よしむら　かずおき　吉村　和起（1937～ ）

1937年　京都市生まれ
1958年　新制作協会展 初入選（以後新制作協会展、創画展に出品）
1959年　京都市立美術大学日本画科を卒業
新制作協会展春季展 初入選（以後出品）
新制作協会日本画部 春季展賞（以後7回受賞）

1960年　京都秀作展（同’63年）
1976年　創画展 春季展賞
1983年　京展 市長賞（同’85年）
1986年　京都府 京の四季展
1987年　京展 京展賞
1992年　京都府いのち賛歌ー日本画百人展
2013年　京都府日本画　こころの京都
現　在　創画会